

PALTEK

(JASDAQ:7587)

**2014年12月期 第2四半期
決算説明会資料**

2014.8.6 (水)

FY2014 Q2 Results Reporting

© 2014 PALTEK Corporation. All rights reserved.

アジェンダ

- ① 2014年12月期 第2四半期
業績結果**
- ② 2014年12月期 業績予想**
- ③ 収益向上への取り組み**

1

2014年12月期 第2四半期 業績結果



連結業績結果(第2四半期累計期間)

(百万円)	2013年第2四半期		2014年第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	7,602	100.0%	11,677	100.0%	4,074	53.6%
売上総利益	1,594	21.0%	1,653	14.2%	58	3.7%
販管費	1,148	15.1%	1,235	10.6%	86	7.5%
営業利益	445	5.9%	418	3.6%	△27	△6.2%
経常利益	450	5.9%	389	3.3%	△60	△13.4%
四半期純利益	258	3.4%	228	2.0%	△30	△11.7%
1株当たり四半期純利益	22.63円	—	19.99円	—	△2.64円	

主な増減要因

- 売上高は、半導体事業が大幅に増加
- 売上総利益は、売上総利益率は低下したものの、売上高の大幅増により増加(売上総利益率低下の要因は後述)
- 販管費は、コーデック製品の開発費を計上したことにより増加(なお、その一部がNEDOより助成され、補助金収入として営業外収益に計上)

(百万円)	2013年第2四半期		2014年第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	6,985	91.9%	11,009	94.3%	4,023	57.6%
デ ザ イ ン サ ー ビ ス	579	7.6%	602	5.2%	22	3.9%
そ の 他	37	0.5%	66	0.6%	28	78.3%
売 上 高 合 計	7,602	100.0%	11,677	100.0%	4,074	53.6%

主な増減要因

- 半導体事業は、通信インフラ、計測機器、オフィス機器、ファクトリーオートメーション向け等が増加

■ 売上総利益率の低下は、以下の3つが要因

- ・ ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減が、2013年第2四半期では+255百万円であったが、2014年第2四半期では△31百万円となった

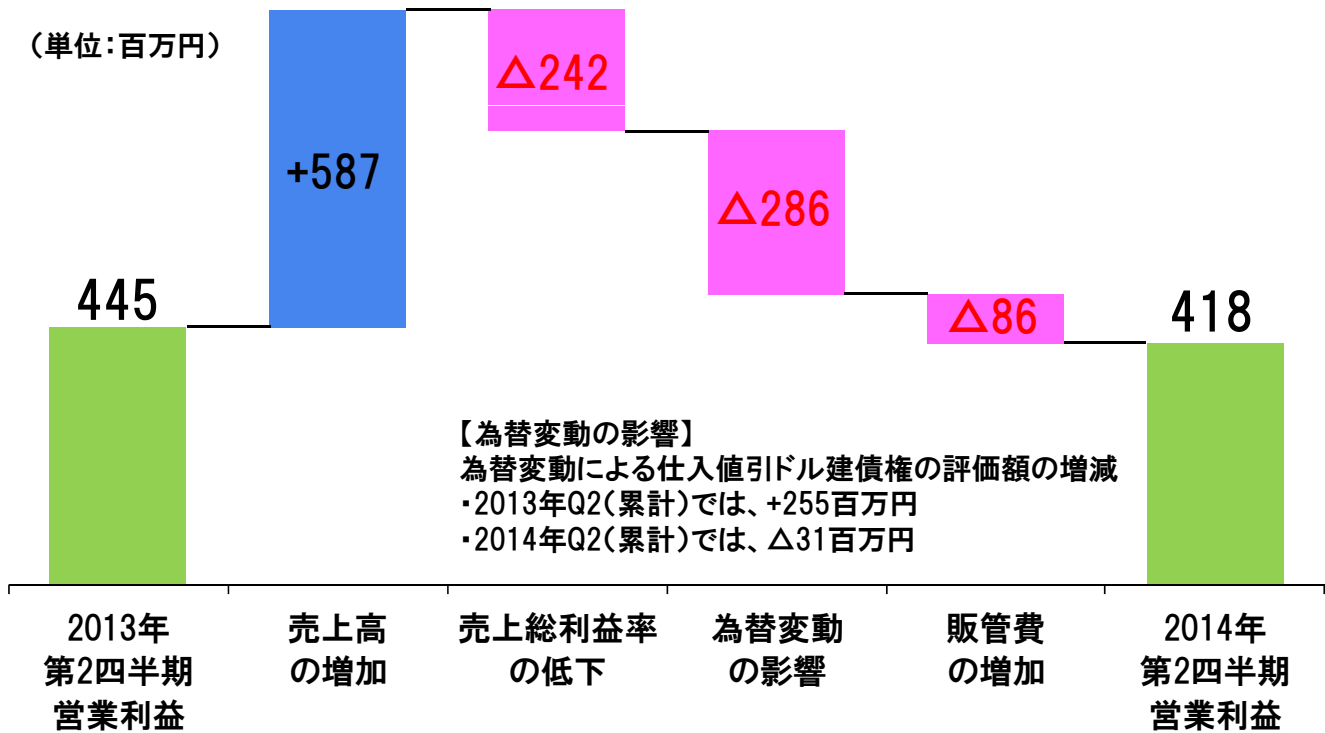
(※仕入値引ドル建債権の説明は、本資料の参考資料に記載)

(百万円)	2013年第2四半期		2014年第2四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	1,594	21.0%	1,653	14.2%
(うち為替の影響額)	255	3.4%	△31	△0.3%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	1,339	17.6%	1,684	14.4%

- ・ 半導体事業の売上高が増加した結果、収益性の高いデザインサービス事業の構成比率が低下
- ・ 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が増加

営業利益の増減分析

(単位:百万円)



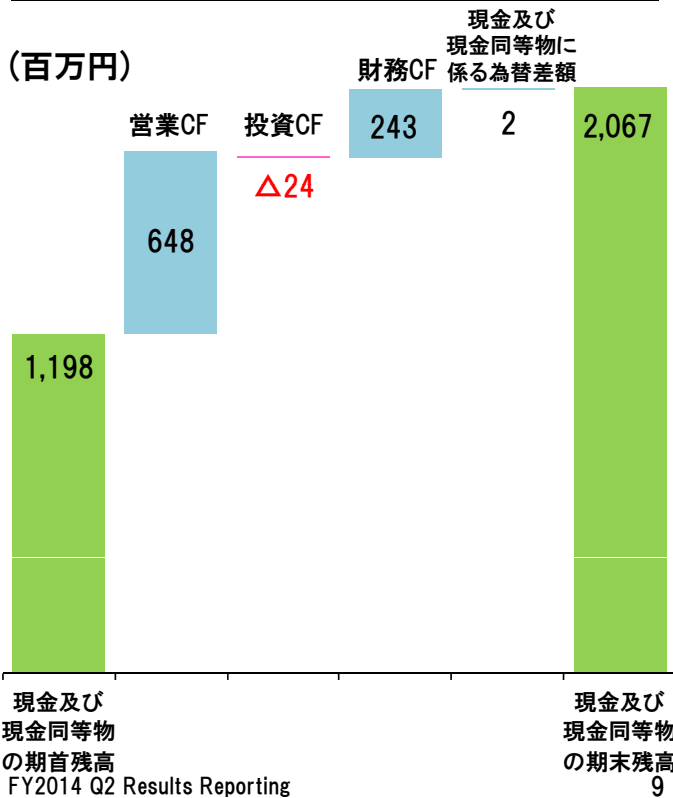
連結貸借対照表の状況

		(百万円)	2013.12末	2014.6末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金		1,198	2,067	869	債権の流動化、借入れの実施等により増加
	売上債権		4,562	4,533	△29	
	商品		2,258	3,016	758	今後の売上増に備え調達
	その他流動資産		2,261	1,668	△592	主に未収入金が減少
	固定資産		606	602	△4	
資産合計			10,886	11,888	1,001	
負債純資産内訳	仕入債務		759	916	157	
	短期借入金		880	1,230	350	
	その他流動負債		649	1,017	367	
	固定負債		323	313	△10	
	純資産		8,274	8,410	136	
負債・純資産合計			10,886	11,888	1,001	



連結キャッシュ・フローの状況(第2四半期累計期間)

2014年第2四半期のキャッシュフローの動き



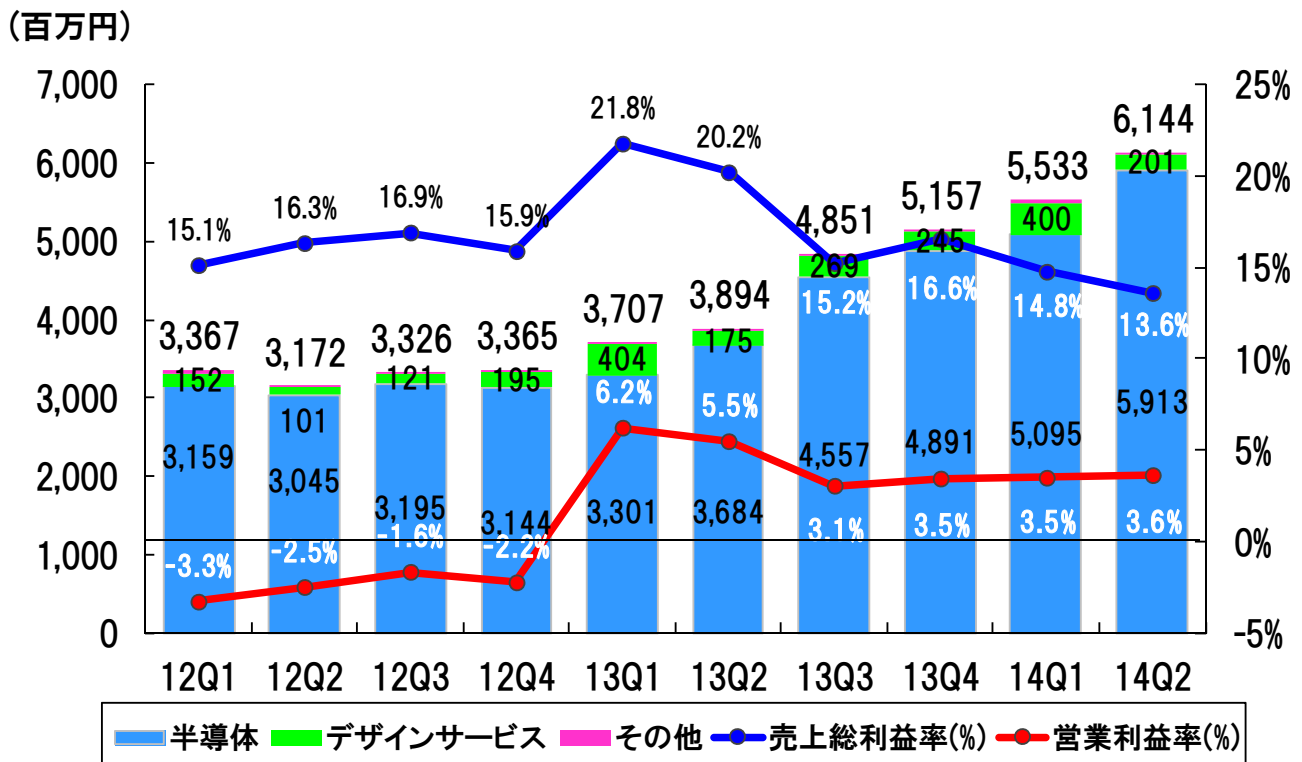
(百万円)	2013年第2四半期	2014年第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	1,739	1,198
営業CF	△148	648
投資CF	△13	△24
財務CF	52	243
現金及び現金同等物の期末残高	1,629	2,067

2014年第2四半期のキャッシュフローの動き

- 営業CF: たな卸資産が増加した一方で、税金等調整前四半期純利益の計上、未収入金等が減少したこと等により収入
- 投資CF: 子会社(株)テクノロジー・イノベーションで事業譲受したこと等により支出
- 財務CF: 借入れの実施等により収入



連結業績の四半期推移

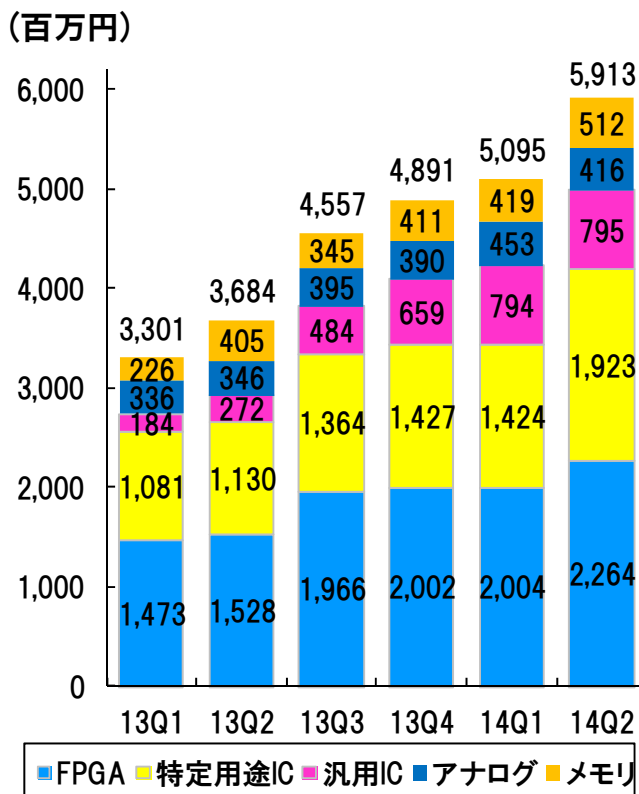


事業別の実績

FY2014 Q2 Results Reporting

© 2014 PALTEK Corporation. All rights reserved.

半導体事業の状況（製品別）

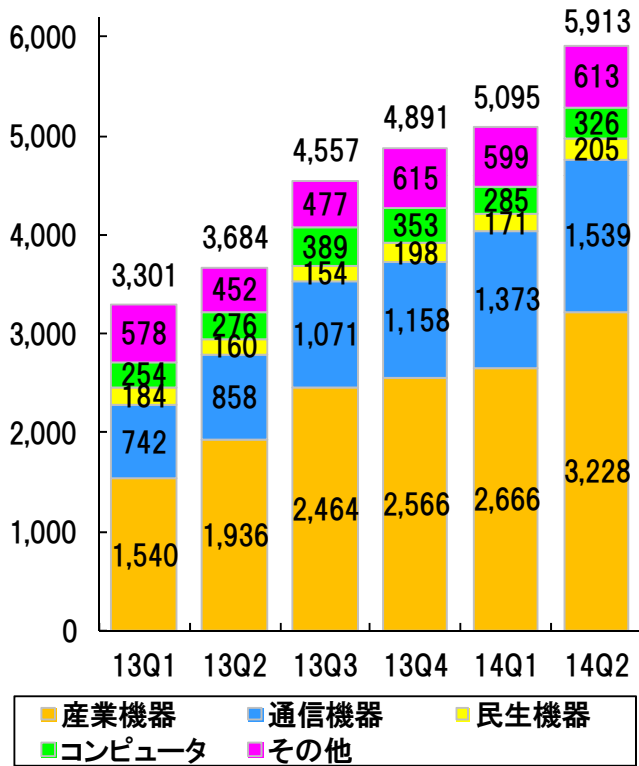


四半期業績の推移

- FPGA**
LTE基地局等の通信インフラ、通信用計測機器向けが堅調
- 特定用途IC**
通信インフラ、ブロードバンド通信機器、放送機器向けが堅調
- 汎用IC**
オフィス機器向けが好調
- アナログ**
ファクトリオートメーション、通信機器、医療機器向けが堅調
- メモリ**
ファクトリオートメーション、民生機器向けが堅調

※ 今四半期より「PLD」というカテゴリを「FPGA」に名称変更しております。

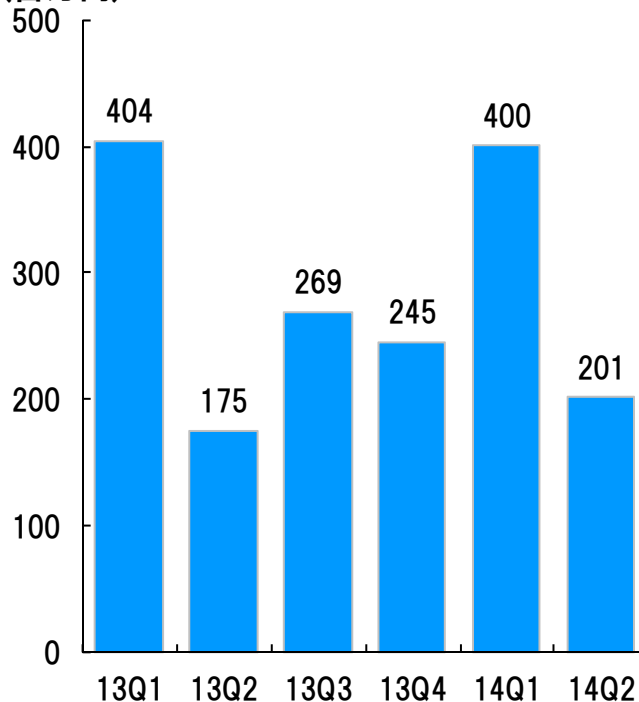
(百万円)



四半期業績の推移

- **産業機器**
 オフィス機器、医療機器、計測機器、
 ファクトリーオートメーション、放送機器
 向けが堅調
- **通信機器**
 LTE基地局等の通信インフラ、ブロード
 バンド通信機器向けが堅調

(百万円)



四半期業績の推移

- 2014年第1四半期に堅調であった
 医療機器、検査装置向けが減少
- デザインサービス事業においては、
 お客様(3月決算会社)の予算との
 連動性が高いため、
 第2四半期の売上高は第1四半期に
 比べ、減少する傾向

2

2014年12月期 業績予想

2014年12月期 業績見通しについて

半導体事業での売上高が想定よりも増加することが見込まれるため、7月25日に業績予想を修正

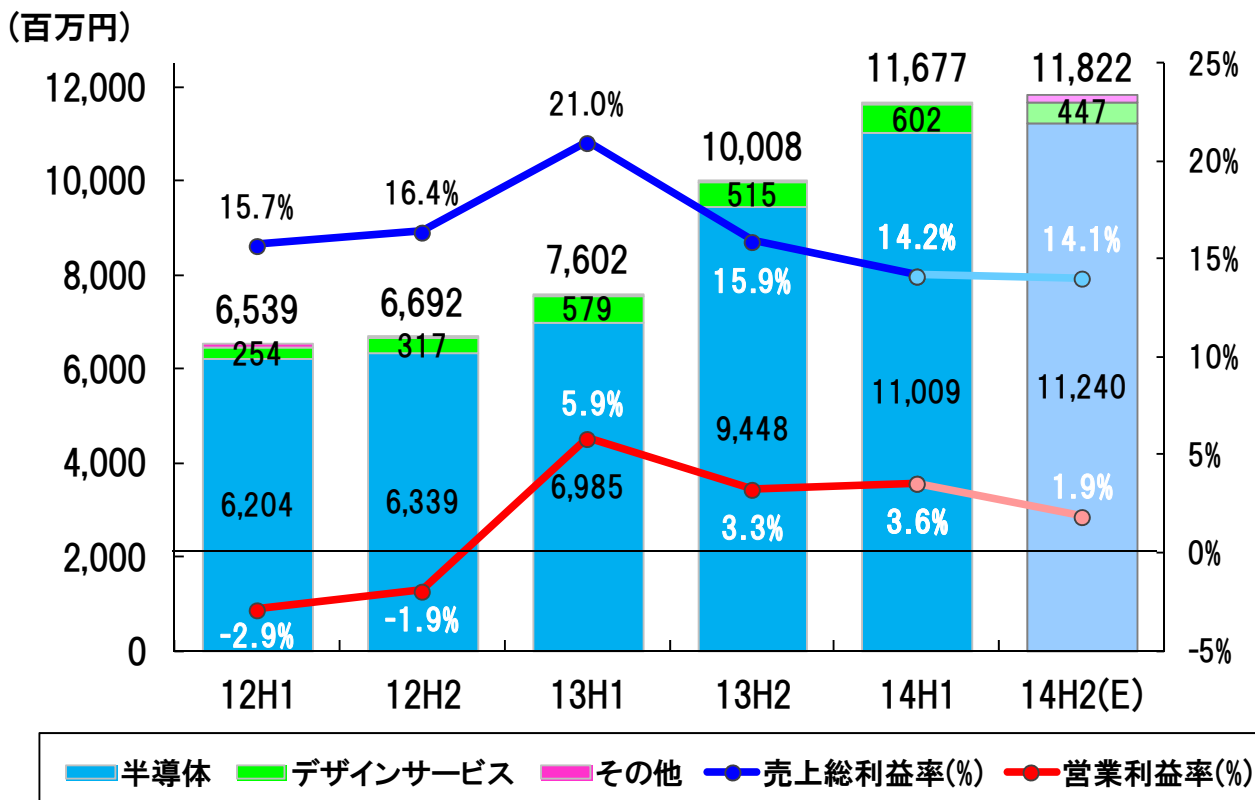
■ 売上高について

- ・ 半導体事業において、LTE基地局等の通信インフラやオフィス機器が堅調に推移すると見込まれるため、売上高を増加

■ 営業利益について

- ・ 売上高は増加する一方で、売上総利益率が若干低下し、販管費が増加するため、営業利益は前回発表の業績予想と同等の水準に
- ・ 【売上総利益】NEDOの開発案件に人員を投入するため、収益性の高いデザインサービス事業の売上構成比が減少し、売上総利益率は低下
- ・ 【販管費】二つの理由で増加
 - NEDO支援事業に採択された「超低遅延8K対応HEVC-ECFによるハイブリッド配信装置」の開発費として、140百万円の投資を実施
 - センサー及びMEMSに関するソリューションを強化すべく設立した株式会社テクノロジー・イノベーションの事業運営費用として25百万円を計上

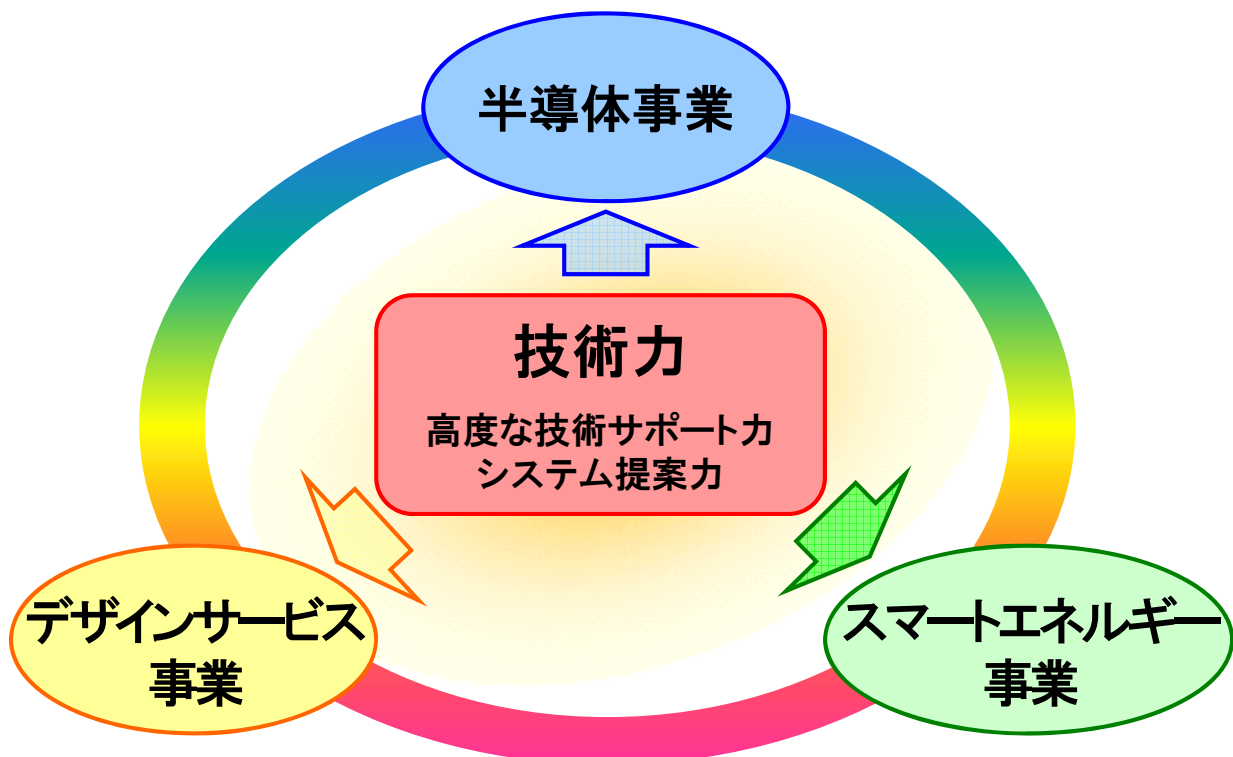
(百万円)	修正予想(5/8)			修正予想(7/25)			上期増減		通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	11,000	11,200	22,200	11,677	11,822	23,500	677	6.2	1,300	5.9%
売上総利益	1,600	1,610	3,210	1,653	1,661	3,315	53	3.3%	105	3.3%
売上総利益率	14.5%	14.4%	14.5%	14.2%	14.1%	14.1%	—	—	—	—
販管費	1,270	1,300	2,570	1,235	1,439	2,675	△34	△2.8%	105	4.1%
営業利益	330	310	640	418	221	640	88	26.7%	0	0.0%
営業利益率	3.0%	2.8%	2.9%	3.6%	1.9%	2.7%	—	—	—	—
経常利益	320	290	610	389	270	660	69	21.6%	50	8.2%
当期純利益	190	175	365	228	161	390	38	20.0%	25	6.8%



3

収益向上への取り組み

PALTEKの事業分野



■ 事業の位置づけ: 基盤事業

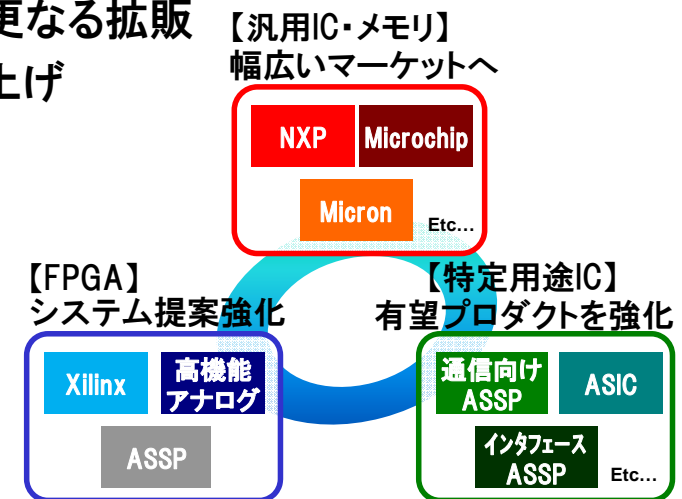
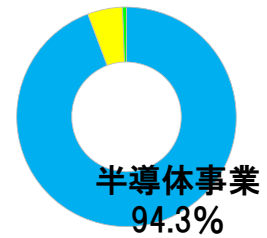
■ 事業の方向性

- ・ 安定的に収益を確保する事業を目指す

■ 戦略

- ・ 中核製品であるFPGAの更なる拡販
- ・ 第2の柱となる製品の立上げ
- ・ 成長市場への注力
- ・ ローコストオペレーションの実施

14Q2(累計)売上構成比



■ 新規顧客の拡大

■ 付加価値提案の実施

- ・ 主力FPGA製品は28nm製品であるため、大規模となり周辺機能を取り込むことが可能
- ・ 高付加価値アナログ半導体、メモリ、IP(知的資産)、各種インタフェース等を組み合わせたシステム提案が重要
 - 通信機器(ワイヤード、ワイヤレス)
 - 医療機器
 - 航空/宇宙
 - 放送機器(4K/8K)
 - 産業機器
 - データセンター

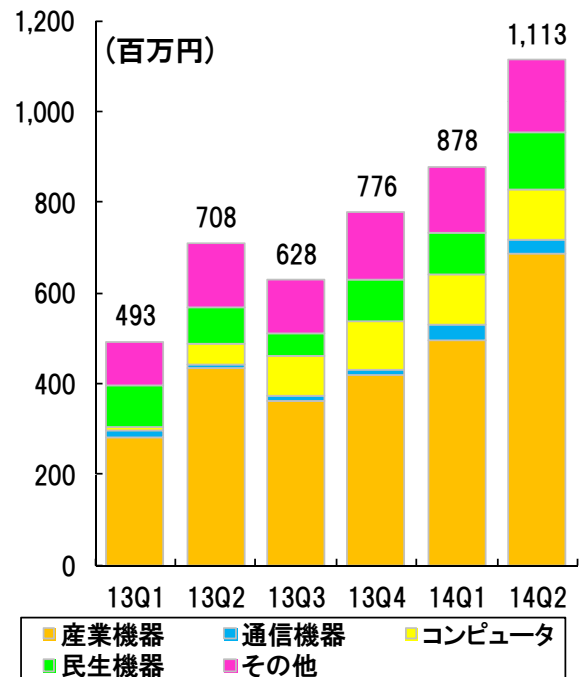


■ 第2の柱となる製品は産業機器向けを中心に増加

- ・ ファクトリーオートメーション
- ・ オフィス機器
- ・ 医療機器
- ・ ヘルスケア・美容機器
- ・ 携帯情報端末



第2の柱となる4製品の売上推移



- センサー及びMEMSのソリューションを強化するため、サイミックス(株)より「半導体事業」及び「MEMS事業」を譲受
- 譲受先としてテクノロジー・イノベーションを設立

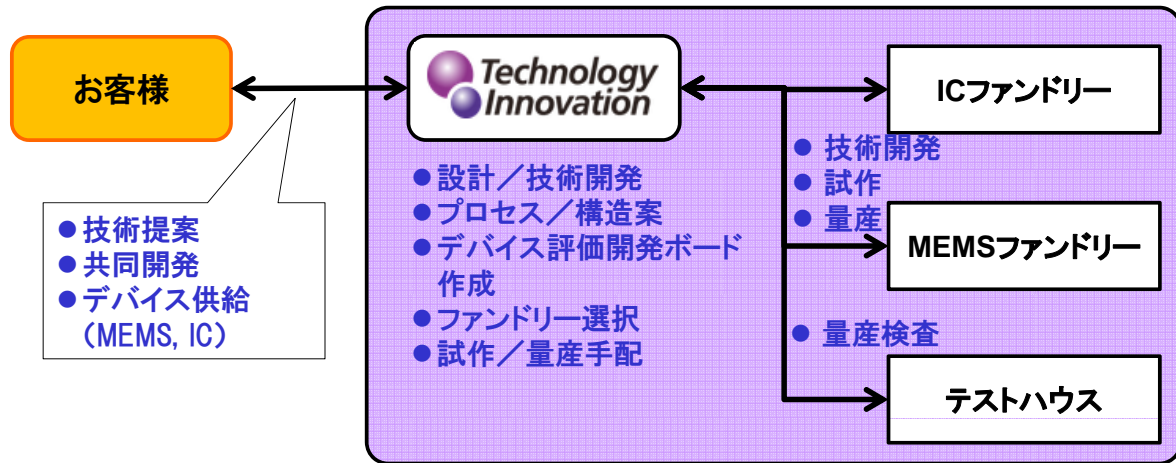
【目的】

- ・ センサービジネスの強化・拡大
- ・ センサー技術力獲得(センサー/MEMS/信号処理IC)

株式会社テクノロジー・イノベーション 会社概要

・設立	2014年6月	・所在地	長野県塩尻市
・資本金	3000万円		
・事業内容	センサー用信号処理IC及びMEMS製品の設計、開発、製造(ファブレス)及び販売		
・特長	人感センサーなどに搭載される高性能な信号処理ICを開発 MEMS技術を応用した小型・超薄型パッケージを開発・量産化する技術を保有		

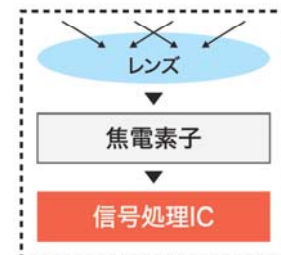
- お客様の要求仕様に基づき、半導体(IC)並びにMEMS製品の設計開発を行う
- 半導体製造会社やMEMS製造会社との間に立ち、より小さく、より高機能な半導体・MEMS製品作りをサポート



■ 半導体事業

- ・ センサー向け信号処理ICの開発、製造
 - ・ アナログ回路、デジタル回路混在により、高精度、低消費電力のIC開発を実施
- ➔
- ・ 家電製品、産業機器、オフィス機器等のあらゆる機器でセンサーが搭載
 - ・ IC内蔵型の高性能センサーが拡大

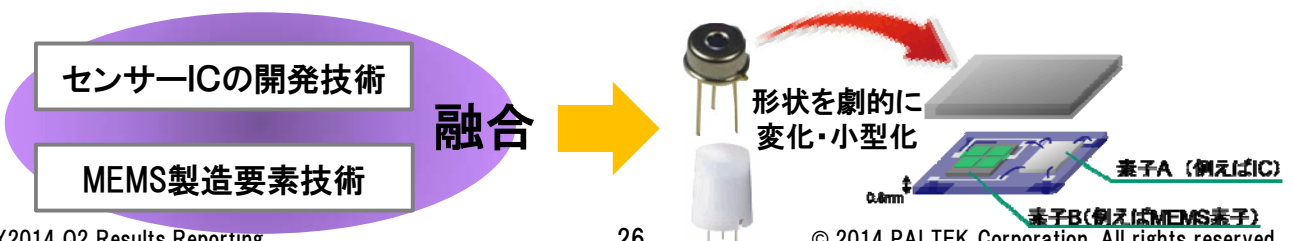
例: 赤外線人感センサー



ICの機能・性能がセンサーの商品価値を大きく左右

■ MEMS事業

- ・ 超小型化/超低背、高気密信頼性などの技術を活用し、モジュール化、パッケージングで付加価値を提供



■ 事業の位置づけ: 成長事業

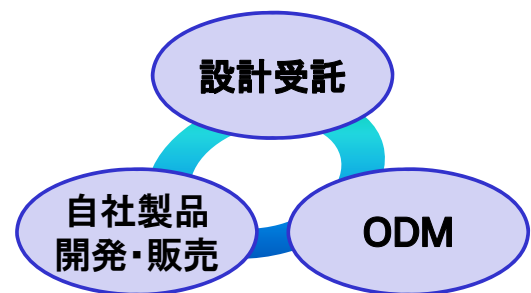
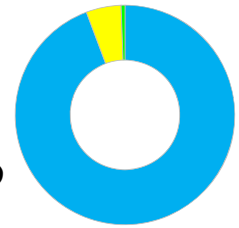
■ 事業の方向性

- 日本メーカーが得意とする医療、放送等の産業分野、通信分野の開発をサポートし、高収益であるデザインサービス事業を成長させる

■ 戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
 - 既存H.264コーデック装置等の販売強化
 - 4K対応H.265コーデック装置の開発・販売

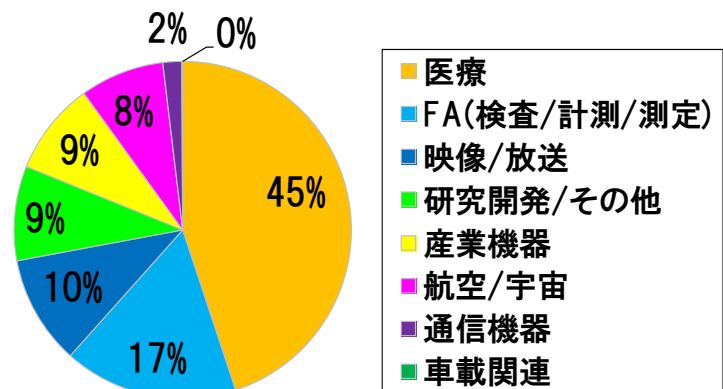
14Q2(累計)売上構成比
デザインサービス事業
5.2%



■ 医療分野での設計受託・ODMが堅調

- 次世代内視鏡の開発
- MRI/CTスキャナ向けエンジンボードの提供

用途別売上構成(14Q2累計)



■ ODMの展開

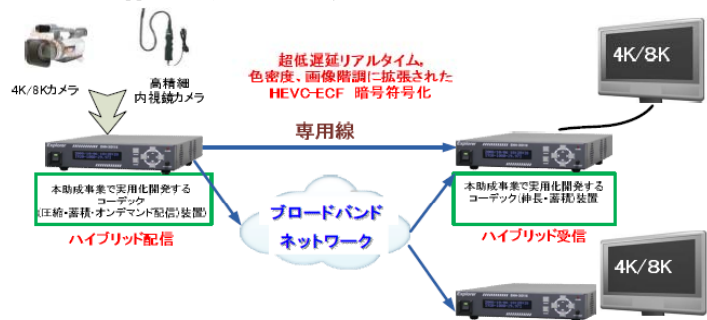
- 医療分野を中心に、14Q2累計売上高の約30%を占める

■ 4K対応H.265コーデック装置の開発状況

- 顧客獲得に向けた営業活動は既に実施中
顧客からの意見を製品開発にフィードバック
- 製品ニーズへの対応、性能向上のため開発を継続
- 販売開始時期を2014年末に延期

■ 超低遅延8K対応HEVC-ECFによるハイブリッド配信装置

- NEDOのイノベーション実用化ベンチャー支援事業に採択
- 事業費用:計上費用の3分の2に相当する金額
- 助成期間:
2014年5月14日から
2015年2月28日
- ターゲット市場:
医療分野



FY2014 Q2 Results Reporting

■ 事業の位置づけ:将来に向けた新規事業

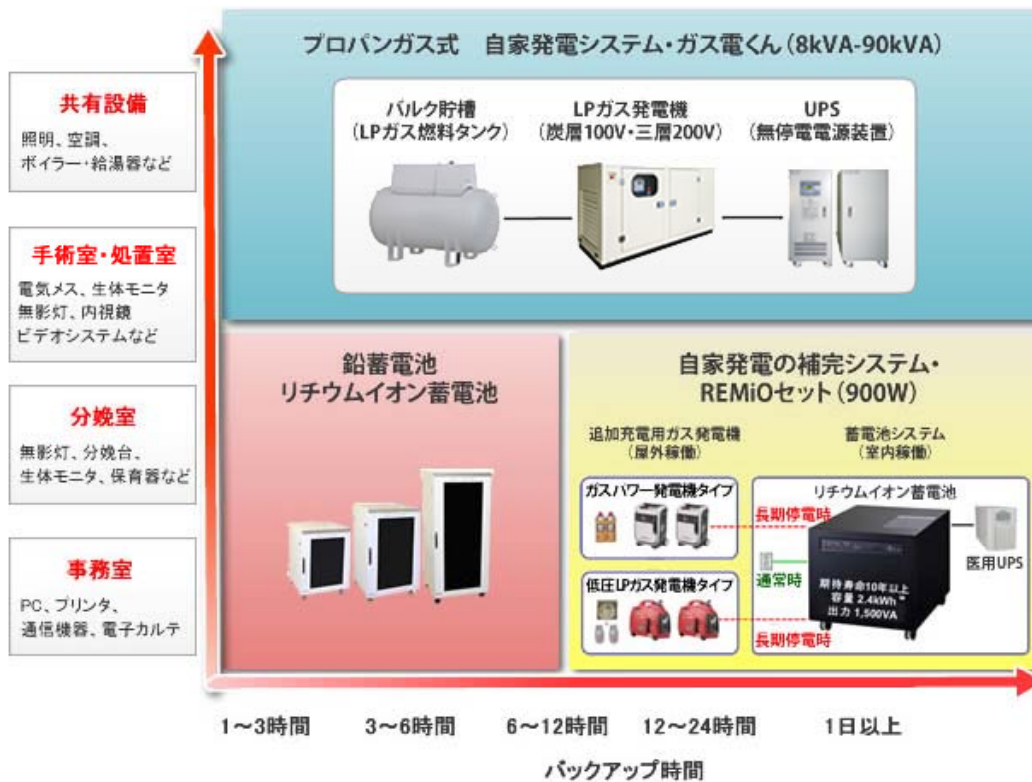
■ 事業の方向性

- 収益拡大に向けて、今後の成長が見込まれるエネルギー分野での事業を構築する

■ 戦略

- 長時間(72時間以上)提供可能な病院向け停電対策システムの構築および販売
- ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築

■ 病院の供給電力ニーズに応じて、各種停電対策システムを提案



FY2014

..ll rights reserved.

■ 上田病院（鳥取県）

- LPガス発電機25kVAと500kgバルク貯槽を導入することにより、停電時にも病棟の室内照明、事務室のIT機器を2日間以上バックアップ



病院外観



LPG発電機



災害バルク貯槽(ガス燃料タンク)

■ 大道中央病院（沖縄県）

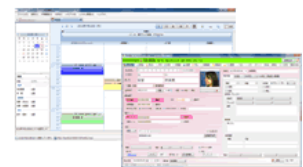
- 台風による停電が多い沖縄において、2.4kWhのリチウムイオン蓄電池を導入し、電子カルテシステムやITシステムの電力をバックアップ



病院外観



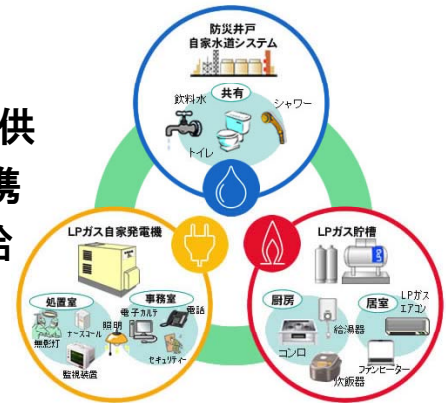
リチウムイオン蓄電池



プロ・フィールド社
自由診療向け電子カルテシステム「ADUSIS Pro」

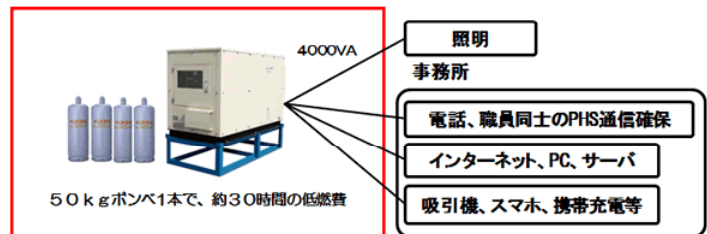
■ 停電・断水対策ソリューション

- 病院や介護施設向けにライフラインのバックアップシステム「防災オアシス」を提供
- 自家発電機、LPガス貯槽、防災井戸を連携
- 停電時に長時間(72時間以上)の電力供給
断水やガス遮断時にも水やガスの供給



■ 介護施設向けに低価格の停電対策ソリューション

- 介護施設向けLPガス発電システム「ガス電くんTM！ケア」を提供
- 4000VAの電力を72時間以上供給可能
- 工事費込みで350万円



FY2014 Q2 Results Reporting

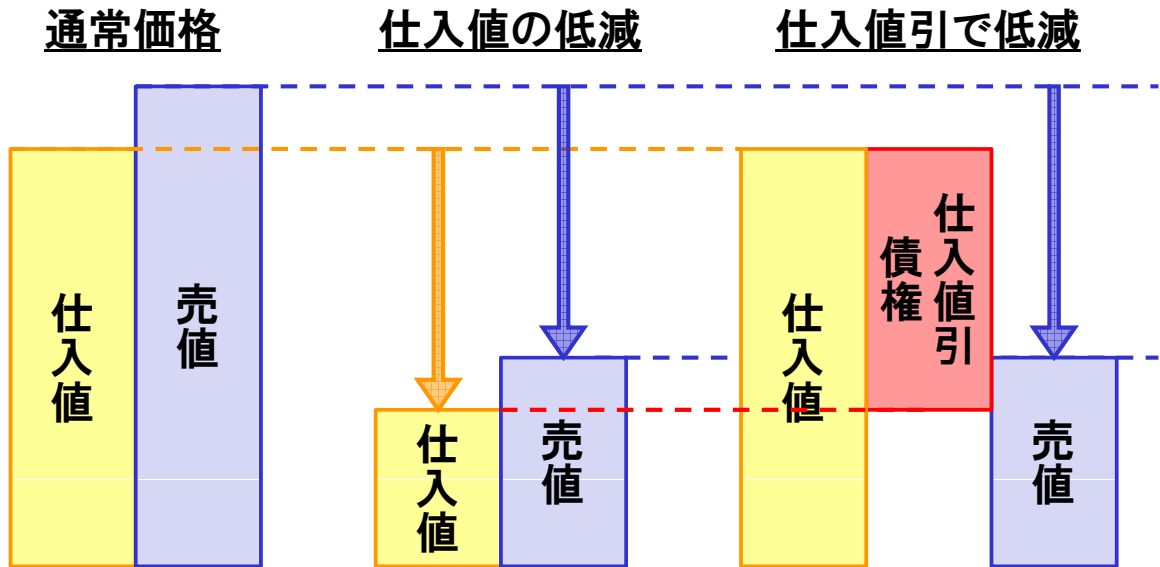
参 考 資 料

(百万円)	2014年12月期 修正予想 (5/8)			2014年12月期 修正予想 (7/25)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
半導体	10,250	10,450	20,700	11,009	11,240	22,250
FPGA	4,100	4,100	8,200	4,268	4,331	8,600
特定用途IC	2,900	2,800	5,700	3,347	3,202	6,550
汎用IC	1,550	1,800	3,350	1,589	1,810	3,400
アナログ	850	800	1,650	870	829	1,700
メモリ	850	950	1,800	932	1,067	2,000
デザインサービス	650	650	1,300	602	447	1,050
その他	100	100	200	66	134	200
売上高合計	11,000	11,200	22,200	11,677	11,822	23,500
営業利益	330	310	640	418	221	640

- 仕入値引債権とは
- 仕入値引債権の評価額変動リスク
- 調達在庫のレート変動リスク
- 決済時ドル調達レート変動リスク

仕入値引債権とは

- 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
- その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
- その実現方法には、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」の2パターンがある



FY2014 Q2 Results Reporting

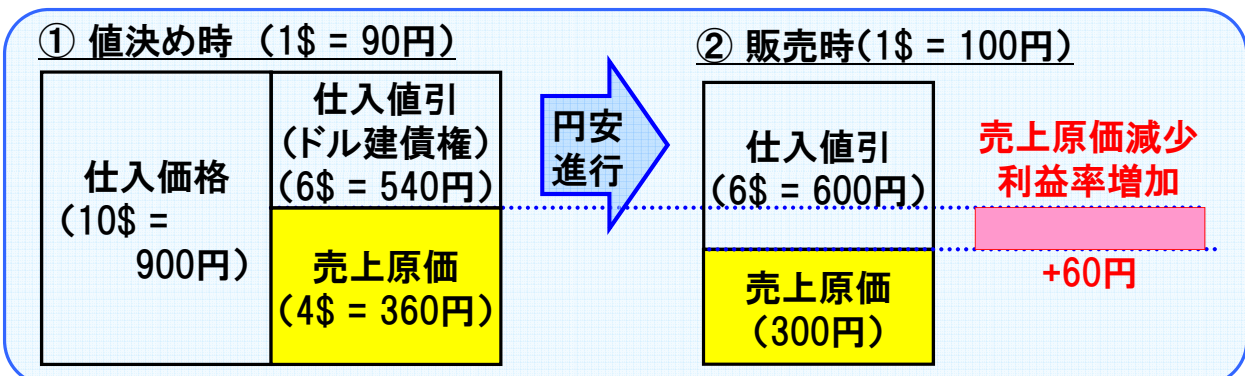
37

© 2014 PALTEK Corporation. All rights reserved.

仕入値引債権の評価額変動リスク

- ① 値決め : 量産案件では、標準仕入価格を下回る特別価格を適用することがある
- ② 販売 : 販売時に仕入値引(ドル建債権)を受け取る。値決め時よりも円安が進行している場合、仕入値引のドル建債権の評価額が増加

売上原価減少 → 利益率増加



FY2014 Q2 Results Reporting

38

© 2014 PALTEK Corporation. All rights reserved.

売上原価増加 → 利益率減少

① 値決め時 (1\$ = 90円)

利益 (2\$ = 180円)	売値 (10\$ = 900円)
売上原価 (8\$ = 720円)	

円安進行

② 仕入⇒販売時(1\$ = 100円)

利益 100円
売上原価 (8\$=800円)

売上原価増加
利益率減少

-80円

① 仕入時 (1\$ = 90円)

仕入 (8\$ = 720円)

円安進行

② 販売・支払時(1\$ = 100円)

仕入値引債権 (6\$=600円)

支払対象額
(2\$=120円)

CASH
(2\$=200円)

決済差額

-80円

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合



以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp